

# 令和2年度貸与奨学金 4月1日受付開始

## 弘済会やんほう

令和2年 3月号

発行  
公益財団法人  
日本教育公務員  
弘済会 岐阜支部  
Tel. 058-272-9513

奨学生本人による **自筆申請書の提出** が必要

受付期間 **令和2年4月1日～4月30日 必着**

- 弘済会の貸与奨学金は
- 無利息
  - 最高100万円一括貸与
  - 返済は最長7年
  - 教弘会員でなくても申請可

大学院に進学したので追加申請したいのですが…  
貸与上限額が100万円となっているため、現在の貸与額が75万円以下であれば、合計100万円まで借りることが可能です。

大学在学中の長女に加え、新たに進学した次女の分も申請をしたいのですが…  
奨学生ひとりにつき25万円となっており、複数のお子さんが同時に申請するのは不可能です。



■申請書類はHPから提出していただく書類は必ず「弘済会岐阜支部HP」から入手してください。

公益財団法人日本教育公務員弘済会（通称：弘済会）は「民による公益の増進」に寄与し社会貢献を図ることを使命として、3大事業―教育振興事業・福祉事業・共済事業（提携保険事業）―を推進。貸与奨学金事業は弘済会が行う「教育振興事業」のひとつです。

■貸与は8月頃指定口座への振込は8月下旬を予定しています。

■決定通知は6月申請書に基づき教育振興事業選考委員会で審査の上、6月初旬を目途に結果を通知します。追加の必要書類を整えて岐阜支部まで提出してください。万一、6月中旬になっても通知が届かない場合は、岐阜支部までご連絡願います。

## 令和2年度弘済会岐阜支部事業 決定！！

（公財）日教弘岐阜支部 第40回幹事会（令和2年2月27日開催）  
令和2年度事業を決定



### 給付奨学

対象人数の拡大

144名 → 162名

### 書籍購入補助（年齢限定）

対象年齢の拡大・助成額の拡充

年度末年齢の1の位が4歳→4歳・8歳

図書カード（2千円） → 図書カード（3千円）

### 入学祝品

助成額の拡充

図書カード（2千円） → 図書カード（3千円）

### 拡充内容

学校研究助成	35校
特別学校助成	
幼稚園	92園
小学校	98校
中学校	34校
高等学校	34校
へき地・複式学校教育支援	
小学校	20校
教育団体研究助成	24団体

### 主な教育振興事業

提携保険会社  
ジブラルタ生命保険  
株式会社  
営業所電話番号

岐阜第1・2営業所  
058-267-6006  
大垣営業所  
0584-83-4500  
関営業所  
0575-22-3793  
美濃加茂営業所  
0574-25-3658  
多治見営業所  
0572-21-3732  
中津川営業所  
0573-65-3517  
高山営業所  
0577-32-1623



### 弘済会の猪の独り言(39)

昨年11月、弘済会岐阜支部が行っている「学校研究助成」の贈呈式である学校を訪問し、そこに勤務するかつての教子Aさんと再会した。彼女を担任したのは、初任4年目。彼女が中1の時の1年間だけだったが、贈呈式終了後にあれこれと1時間以上も話をした。A子は「私の親にとって私が初の子で、中学校入学に不安を感じていたし、私自身も小学校6年間は女性の先生が担任だったから、男の先生が担任だと知った時はとても不安だった。でも、学校でキャンプに行った時に、私がゴミ拾いをしていたら、それを見た先生が褒めてくださった。ああ、私のことを見ていてくださるんだなとうれしくなったことを覚えていて」と話してくれた。40年以上も前のことなのに、私の記憶からは消えていたが、そんな些細なことでも生徒の心に残ることがあるということを知ることができた。

「過去は美化される」と言われた方がいる。かつて一緒に勤務した方が、当時の大変さを忘れたかのように自慢気に「自身のことを話されるのを聞いて「なるほど」と思ったことがある。生徒との関わりの全てが「美しいもの・大切なもの」として美化されていけばいいのだが、残念ながらそうとは言い切れない。どうしても当時の対応に悔いが残っている生徒が存在する。教員13年目から2年間担任したB男は、そんな生徒の一人だ。彼は性格は至って穏やかで生徒指導上の問題行動などは皆無だった。一方で、私の学級には生徒指導上の配慮が必要なC男がいた（「独り言25」等でも紹介）。私の目は、絶えずC男に向けられていた。その反動と云ってしまえば言い訳になるが、学力的支援が不可欠なB男のことを気に掛けることは余りなかった。空き時間に教室に行くと、彼の学習支援をすることが時にはあったが、その程度で彼の学力が向上するなどというのでは全く期待できなかった。

（裏面に続く）

# 令和2年度 教員免許更新講習補助 4月1日受付開始

## 申請方法等の一部を変更 ご注意ください

### ■ 申請ができる教弘会員の条件

- ① 令和元年度、又は令和2年度に「教員免許更新講習」を受講していること（延期・免除対象者は申請不可）
- ② ①の講習を受講後に平成31年4月1日～令和2年10月31日の日付で、県教委から「修了確認証明書、又は有効期間更新証明書」を交付されていること（令和2年11月1日以降に交付される方は次年度4月1日からの申請）
- ③ 「修了確認証明書（有効期間更新証明書）」の交付日以前に教弘会員となっていること

### ■ 補助内容

図書カード（3千円）

### ■ 申請受付期間

令和2年4月1日～令和2年11月5日

（令和2年11月1日以降に交付される方は次年度4月1日からの申請）

### ■ 申請書の入手方法

弘済会岐阜支部HP（各種様式）から入手（申請書には「証明書」のコピーを貼付してください）

教員免許更新講習が一巡し、新たに「新免許所有者」が受講対象者となったことや過去2年間の本事業の課題等を踏まえ、申請方法等の一部変更しました。これも申請される全ての会員に補助できることを考えての措置ですので、大変ご迷惑をおかけしますがご理解賜りますようお願いいたします。



# 令和元年度 「年金」等の講座開催校・団体 急増

## 将来への早めの備えが不可欠な時代

いつの間にか話題にならなくなった「老後 2千万円問題」。しかし、この問題は決して消えてはいません。まずは「知識を得ること」から始めておかなければならない時代です。

令和元年度は、学校・団体等からの講座開催希望が急増しました。若い先生方の関心の高さも実感しました。

### ■ 年金講座

若い内から知識を得ておかなければならない「年金問題」。公的年金の仕組み、少子高齢化が進展する中での問題点等について説明。

### ■ 三大疾病と介護講座

介護問題を切り離して考えることができない長寿社会。社会保障制度の現状と介護への備えについての情報提供。

### ■ 生涯生活設計講座

老後への備えは早いほどよい時代。資産作りや運用を考える際の注意事項、退職後のリスク等の情報を提供。

### ■ 申し込み方法

弘済会岐阜支部、又は学校担当LCまで（先着順）。来年度開催の申し込みも受け付けます。

このセミナーは、シブラルタ生命保険（株）の講師資格を持つ者が担当しますが、公正・中立の立場から講座を運営します。生命保険などのセールスは行いません。

また、少人数での開催も可能です。

## 読者の広場

### ■ 高山市 秋

11月号の「猪の独り言」を拝読し、共感しました。職員にも注目して読んでほしいと思い、マーカーペンで囲んで、回覧しました。

### ■ かどわさ わがや

毎回、「弘済会の猪の独り言」を楽しみにしています。猪さんの体験談が人間味を帯びていて、好感がもてます。それとともに私たちが忘れてはならない教育現場での機微に触れさせてくださっていると感じます。過去の話ではあれど今の教育でも通用する大事なことがそこにあり、私自身も自分を振り返りながら読んでいます。これからも味のあたる独り言をよろしく願っています。

## 読者の広場 投稿大募集

弘済会では、「弘済会くまろう」を読まれての感想、「退職予定者セミナー」や「年金講座」等に追加された感想、各種助成事業を受けた学校からのご意見を大募集しています。

投稿は、弘済会岐阜支部HPからできます。また投稿いただいた方の中から抽選で毎月10名程度の方に粗品を進呈します。

その日は修学旅行初日だった。午前6時半、学校前の道路に並んだバスに乗車する直前、B男の父親が私の所に来られ、「先生、よろしくお願ひいたします」と声を掛けられた。母親とは何度かお目にかかることはあったが、父親と会うのはその日が初めてだった。何気ない一言だったが、かけがえない息子を思つた父親の愛情を強く感じた。そのB男は、中学校3年生の後半から学校を休むことが多くなった。学習内容が全くと言っていいほど理解できない彼にとつて、授業を苦痛に感じていたことは容易に想像できた。それでも彼に十分な手を差し伸べることはなかった。やがて進路先を決めなければならぬ時期になった。「何とか全日制の高校に行かせたい」と、父親は言われた。父親としての切実な願いは分かりつつも、私は、彼の学力や性格を考えて「就職と定時制への進学」を勧めた。果たしてその助言が適切であったのかどうか、今でも分からない。彼は、私の勧めに従つてある会社に就職し、そこから定時制高校に通学をしたが、2年ほどで退学をしてしまったことは後日知った。数年後、彼の自宅を訪ねたが、既に転居して行方は分からなかった。



若い頃に仕えた教頭先生から教えられたことがある。「毎日、全員に声を掛けることは難しいかもしれないが、1週間が終わったら声を掛け忘れた子がいなかったかどうかを確認し、翌週には必ず声を掛けなさい」と。しかし、彼を担任した2年間に、果たして何回言葉を掛けたのだろうか。おとなしく問題を起こさないといいことで、後回しにしていた自分ではなかったのかと度々思い返す。

今年度も残すところわずかである。担任をしている子どもたちに声を掛けることができるのもあとわずかである。年度最後の一言が、子どもにとって忘れられない一言になることもある。悔いの残らない締めくくりにしていただきたい。